

第32号



2013. 1月



発行 城里町社会福祉協議会 ☎ 029-288-7013 FAX 029-288-7021 ホームページ <http://www.shirosato-syakyō.com>
編集 広報ボランティアグループ



ぺったん・ぺったん

今はあまり耳にすることがなくなったむかしなつかしい
餅つきの音が、新しい年の足音とともに聞こえてきた。

両足でしっかりと大地を踏みしめ、新年を迎えるにあたって、
大きな夢と希望を抱き、さあ出発しよう、良き仲間とともに！

新年のご挨拶

社会福祉法人
城里町社会福祉協議会



会長
阿久津 藤男

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さまには、お健やかに2013年の新年をお迎えになられましたことを心からお慶び申し上げます。また、日頃より町社会福祉協議会運営、活動に深いご理解、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

当会では、昨年4月に地域福祉活動計画を策定し、地域福祉活動の推進に努めてまいりました。地域福祉活動計画は、「誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくり」、「人がつながる地域づくり」、「魅力あふれる地域づくり」の3つを柱に、町民の皆さまが議論、検討を重ね作り上げてきました。計画の策定にあたって、多くの町民の皆さまのご協力をいただきましたことを深く感謝いたします。

町民の皆さまのご協力のもと策定されました地域福祉活動計画は、計画で終わらせないよう、確実に実行していくことが重要であり、そのためには町民の皆さまの参加、協力が何より必要です。多くの町民の皆さまが参加し、協力をし、携わる方々が喜びを感じるような環境を整えることが地域福祉の向上であり、社会福祉協議会が担う役割であると考えます。皆さまが、「安心」、「魅力」を実感するまちづくりに今後も努力していきたいと思っております。

また、既定の福祉制度を行うのは行政であります。行政では手の届かない部分を補えるのが社会福祉協議会であり、それぞれの役割のもと連携をしながら、町民の皆さまと「安心して暮らせるまち」を目指し、今以上に地域福祉を推進したいと思っております。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまにとりまして、新しい年がより良い年であり、ますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

きろさつと生きる

地域の安心安全を守る

塩沢 つや子さん（徳蔵）

杉木立の奥に塩沢さんの家はあります。「今、笠間警察から不審者がいるとの連絡が入ったので、独り暮らしの家に行って様子を見て来たんですよ」と元気に語る塩沢さんは、地域の安心安全を見守るボランティア活動を長年続けてこられました。

しかし平成5年ご主人を亡くされ、茫然自失。高校生の息子さんと2人きりで、一時は外へも出ず、うつ状態になりました。しかし心配した知人の勧めで仕事をする様になり、徐々に明るさを取り戻しました。



塩沢 つや子さん

そうした中でもボランティア活動を続けてこられ



しろさと町民まつり出演

ました。現在は城里町交通安全母の会連絡協議会会長として8年、城里町の安心安全に取り組み、更に茨城県の評議員も務めています。

以前は児童の通学路で立哨当番など行いましたが、合併後はバス通学となり、それは無くなりました。現在では児童への防犯対策「イカのおすし」のPRや、地域で行なわれるサロンなどに出かけ、寸劇や唄と踊りなどを通して、高齢者の交通安全、安否確認、振り込め詐欺などに合わないよう、注意を呼びかける活動をしています。昨年11月に行わ

れたしろさと町民まつりにも寸劇や踊りを披露し、交通安全等を訴えました。またつくしの会（七会）のお弁当作りや、配食サービスなどの活動もしています。

こうした地道な活動は、関東管区交通安全協会や、財団法人全日本交通安全協会の表彰を受けています。カレンダーには、ぎつしりと予定が書きこまれ、忙しい毎日ですが、「ボランティア活動を続けてきて、本当によかった」と明るく語る塩沢さん。いつまでも元気で、町の安全のために尽くしていただきたいと思

います。

◆児童への防犯対策

イカ：知らない人について行かない

の：知らない人の車に乗らない

お：「助けて」と大声で叫ぶ
す：怖かったらすぐににげる
し：家の人に知らせる

巳年

今年の抱負は

●平成13年生まれ

添田 珠唯奈さん(石塚)



私は、1年生の時から石塚ビックスに入団しました。小さい時はいつも泣いていましたが、頑張って練習をして、今は5年生でサードをしています。今年は最後の年なので、大会も沢山の練習もあると思うけど、今までお世話になった团长、監督、コーチに1勝でも多く勝利をプレゼントできるように頑張りたいです。

●平成元年生まれ

竹内 真弥さん(那珂西)



私は、今年で24歳なので、2回年女を迎える事となります。去年から社会人として働きはじめましたが、学生時代には学ぶことの出来ない人間関係や知識などで毎日が溢れています。今年の干支の蛇のように、長くクネクネと色々な事がある1年になったとしても、終わる頃には、何倍にも成長できるように、物事に果敢に取り組んでいく様頑張っていきます。

●昭和52年生まれ

所 則子さん(御前山)



新年明けましておめでとうございます。今年は、両親そして友人に安心してもらえる年にしようと思っています。

たいです。巳年の人は、執念深いといわれます。何があっても執念深さで乗り越え、負けない強い心で、年女を笑顔でENJOYしたいです。そして、感謝の心を忘れない一年にして参ります。「心こそ大切なれ」です。

●昭和40年生まれ

高島 隆一さん(阿波山)



生まれて4回目の年男を迎えます。1回目、ただただ無邪気に過ごした12歳。2回目、社会人生活も少しは慣れた24歳。3回目、地域での立場も確立した36歳。そして、今年、家業、地域の責任を果たしながら素敵な年男を迎えたいものです。

●昭和28年生まれ

河原 進さん(上赤沢)



巳年は我慢強さや恩を受けた時にはその恩に報いるといった性格だそうです。今年還暦を迎えますが、今までの自分の人生は、我慢強く、粘り強く、時には相手の気持ちを労わりながら生きてきたような気がします。

●昭和16年生まれ

加藤木 力さん(孫根)



今年の抱負は、「明るく、元気に、若々しく」生きていきたいと思っています。

●昭和4年生まれ

小林 治壽さん(阿波山)



ビリ体操のボランティアや、岩船公民館講座でのカラオケ、桂運動公園で週1回のグラウンドゴルフ練習など、仲間たちの指導を受けながら、いつまでも健康で楽しく、今年も頑張っていきたいと思っています。

巳年生まれの私は7回目の干支を迎え改めて月日の流れを感じます。退職後、26年皆様に支えられ司法の片すみを歩み続けることができ深く感謝いたしております。

幸い健康に恵まれ、多忙な日々を乗り越えて来ましたが、最近では、体力的に息切れを感じ、そろそろ限界かと考えるようになりました。最後まで悔いのない人生を送りたいと念じております。



第8回城里町表彰式典 城里町社会福祉大会

平成24年11月22日(木)
にコミュニティセンター城
里において町表彰式典並び
に町社会福祉大会が開催さ
れました。

式典では、阿久津藤男町
長より式辞、その後来賓祝
辞等があり、受賞された
方々への感謝の言葉があり
ました。

今回受賞された方々の氏
名、団体の名称は次のとお
りです。なお、敬称は略さ
せていただきます。

城里町長表彰受賞者

自治功労表彰

稲川 義一、磯部 昇
河亦 博、三村 一夫

自治表彰

三村由利子、所 和明
松崎 勤、小林 輝男

一般表彰(表彰状)

(故)佐藤 國保、石崎 貞夫
(故)鶴田 力、川井 昭
関 合志

一般表彰(感謝状)

猿田 清美、真宗大谷派
社団法人茨城県公共嘱
託登記土地家屋調査士協
会、酒井 幸典

城里町社会福祉協議会長 表彰受賞者

ボランティア表彰

安藤ナミ子、山崎 一枝

桑原 綾子、江幡 哲子
安藤美恵子、川原 モト
清水 洋子、大座畑たみ
大森 京子、山口 修

生畑目真知子、富田 光子

仲田 由江、蘭部 明美

櫻井 和子、仲山 正子

岡本かつ子、小島 等

富山 幸子、今瀬 満

廣木 てる、大内 さた

瀬谷 博子、鯉淵喜美子

富田佐智子、久貝みゑ子

飯村 節子、今瀬多代美

岡崎みつゐ、所 はや

寺門ひろみ、仲田 信一

横倉 すゑ、木原美智子

久貝 和子、森島 正代

笹嶋 則子

つくしんぼ音楽隊

社会福祉協議会役員 (感謝状)

加藤 三郎、寺門 孝子
所 好夫、飯村 隼子
猪野 和信、萩谷 晃
関口恵美子、興野 正江
小林 通代、三村 壽子
杉山利恵子、阿久津清仁

心配ごと相談員(感謝状)

猪野 和信、仲田 一見
飯村 隼子

善意銀行

皆川 泉、高野 静

磯部 和子、入野きみ子

寺門ひろみ、加倉井則子

加藤 克彦、加倉井一史

加瀬 勤、増井 孝夫

山崎 秀雄、桐原 元

江幡 きく、綿引 芳紀

檜山 重美、城里町文化

協会、増井一區夏祭り実

行委員会、与三郎庵、第

10回那珂川鮎釣り大会茨

城2011実行委員会、

城里町くらしの会、常北

女性会、らぶそんぐ、石

塚サン・トラベル株式会社、

利根コカコーラボトリン

グ株式会社、青山花しよ

うぶ保存会、セブンイレ

ブン常北下古内店、水戸

ヤクルト販売株式会社

茨城県知事表彰受賞者

どんぐり

常北絵手紙の会

茨城県社会福祉協議会長 表彰受賞者

柳橋 清子

(みどり保育園)

萩谷 容子

(みどり保育園)

城里町花いっぱい運動 コンクール入賞団体

地域の部

最優秀賞

錫高野生産クラブ

優秀賞

上坪フラワーボラン

ティアの会、下坪3世

代交流団体、下赤沢J

A女性部

学校の部

最優秀賞

石塚小学校

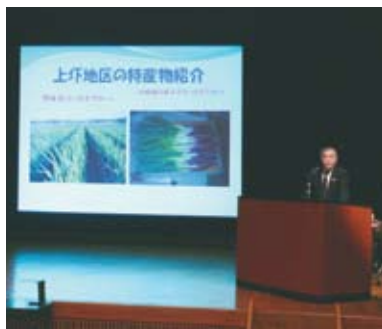
優秀賞

七会小学校

常北中学校

リーダー研修会 上環長寿会発表

平成24年11月27日（火）に茨城県総合福祉会館1階のホールで平成24年度茨城県老人クラブリーダー地方研修会が開催されました。



発表する興野会長

その研修会において城里町上環長寿会が、県北・中央・鹿行ブロックの代表として「グリーン千波」と共に活動事例の発表を行いました。当日は事例を発表する興野一秀会長、映像と補足説明担当の大越三男書記他5名の方々が出席されました。開会行事のあとはいよいよ事例発表となりました。はじめに「グリーン千波」の発表があり、次に上

環長寿会の発表がありました。興野会長は、さきほどまでのやや緊張気味であった面持ちと違ってにこやかに立ちあがり、ゆつくりとはつきりとした口調で説明に入りました。

実に堂々と重みのある声であり、時々笑みを浮かべながら地域の概要に始まり主な活動内容、長寿会の組織、そして今後の会の方向性などを発表しました。

特にそのなかで今年で設立50周年を迎えたこと、23年度77名の会員が24年には95名になったことなどに対して、会場の人達に驚きの声があがりました。

そのあと大越さんが映像を使って活動の補足説明を行い、持ち時間の30分を少々オーバーして発表を終了しました。興野会長をはじめ参加された皆さん大変ご苦勞様でした。今後益々の会の発展を期待しております。

グラウンドゴルフ(2) 誰もが認める磯野チームの強さ

町高ク連主催グラウンドゴルフ(以後GG)過去14大会で、磯野チームは団体戦で優勝6回、2位3位計11回。また個人戦でも茂木忠勝さんが優勝4回、富永裕夫さん、富永博さん、国井豊吉さんがそれぞれ1回、と14大会のうち7大会で優勝者を出しています。また、特記すべきは第14回大会。団体戦で1位・3位、個人戦でも1位と3位です。そこで、その強さの背景を磯野長生会長国井豊吉さんと茂木忠勝さんに聞きました。

週2回のクロッケーの練習で腕を磨く

まず驚いたのは、GGそのものの練習は日常的には行っていないということでした。ただ、月に1回程度「いこの村廻沼」に行き、そこで練習するそうです。参加者は毎回12人位いるとのこと。では、GGの練習をほとんどしなくてどうしてこんなに強いのか、伺うと、国井会長は「毎週火・土の午前中クロッケーの練習をやっています。ボールを狙った所に打つということGGと同じですから、それ



磯野チームのみなさん

がGGの練習にもなっているのでしょう」と言われます。また、茂木さんは「方向をよく見定めたら、ボールから目を離さずその中心を打つこと、これを身につけることを大切にしています」と、日頃の練習課題を披露されました。何事も基本が出来ていれば他のスポーツにも応用できるということのようです。

しろさと⑮ 町無形文化財 古内大杉ばやし

現在活動しているメンバーは約40名。常北小学校児童、旧古内小を卒業した社会人、地域の方、いずれも伝統を守りたい、伝承したいという雄志で構成されています。



町民まつりでの演奏

城里町介護予防講演会 介護予防は自分のために

平成24年度城里町介護予防講演会が、昨年の11月4日(日)にコミュニティセンター城里で行われました。

城里町社会福祉協議会会長の阿久津藤男町長の挨拶のあと、大田仁史先生(茨城県立健康プラザ管理者)が「『介護予防』は自分のために」をテーマに基調講演を行いました。

大田先生は、現在、団塊の津波がどんどん押し寄せており、老々介護や孤立する生活困難者が増えていることを指摘。サロン活動、配食サービスによる安否確認等「見守り機能の組織化」が必要と述べました。

また昔は「向う三軒両隣」や「井戸端会議」があったが、



講演する大田先生

今は無くなっている。しかし高齢者が動けるのは「向う三軒両隣」で、この役割を果たす事業がサロンであると指摘しました。



聴き入る観客の皆さん

さらに「行く先が無いので『出ない、出さない、出られない』から、閉じこもり、寝たきり、認知症になっていく。ご近所のサロンなど行く先を作り、出かけられる場を作りましょう。超高齢社会は住民自らが力をつけ、自らが社会に役立つ行動を起こしていきましよう」と呼び掛けました。

休憩のあと、水戸藩 YOSAKOI連による踊り、介護予防劇場などが、賑やかに行われました。

つくしの四季 26

2012年はオリンピッククイヤーで、メダルの数で歴代1位の記録が出た年でもありました。今回のつくしの四季は、昨年の10月と11月の行事を紹介します。

まず、10月23日(火)に、作業所の通所者9名、指導員6名で、旧山形町へ紙すき体験に行ってきました。今は、和紙づくりをしていく所が少なく、学校の数も減ってきているので賞状依頼が少なくなっているそうです。それから、海外にも同じ製法が使われていて、ジーンズを細かくして再利用しているようで、日本のようななめらかな紙は作れないという話を聞き、勉強になりました。

僕はいろいろな色水に浸された和紙を使って台紙の上にそれぞれの絵を描きました。出来た絵は作業所に展示してあります。常北保健福祉センターへお越しの際には、ぜひ見てみてください。



紙すき作業の様子

11月17日(土) 水戸特別支援学校で、僕の所属しているつくしんぼ音楽隊が演奏してきました。僕の卒業した学校での発表会ということで、前からずっと出たいと思っていてようやく夢が叶いました。代表曲、「翼をください」をはじめ、「さんぽ」、「故郷」など、最後にコブクロの「蕾」の6曲を披露しました。皆さんからたくさんの方の協力を得て、ここで実現することができたととても感謝しています。これからも、色々な所で活躍できることを信じて、音楽とともに過ごしていきたいです。この様子は、水戸特別支援学校のブログで見ることが出来ます。ぜひ検索してみてください。(加藤 直)

手話を学ぶ

⑤ 感情の表わし方

「愛する」

下向きにした左手の甲を右手の手のひらでなでるように回す



人の頭をなでる様子から(愛・大事・大切・ポイント)の手話にも使われます

「大切」

右手の手のひらを左のほかに2回あてる



おいしい

右のほほにあてると「おいしい」の意味になる
(貴重・大事・もったいない)の手話にも使われます

千客万来 ボランティアの店は大繁盛

昨年の11月17日(土)、18日(日)の2日間にかたり、常北運動広場にて、ホロルのたまご「しろさと町民まつり」が開催されました。

1日目の17日は、朝から冷たい雨が降ったり、やんだりと生憎の天気でした。傘の花が次から次へ開き、悪天候の1日でしたが人出はまずまずでした。

2日目の18日は、天気は良好、ただ風の強い1日でした。人出は昨日よりも多く、とてもにぎやかでした。

町民まつりには、城里町



くらしの会・ホロルクラブ・輪を広げる会が日用品や衣料品等を販売、常北女性会が天ぷらうどん・そばを販売、シルバー人材がポップコーンと焼き餅を販売、城里町地域活動支援センターつくしが手作り菓子や小物等を販売し、たくさんのお客さんを集めていました。

又、2日目のステージ発表には、つくしよさこい城里が、恒例となった「よつちよれ」「鮭サンバ」を披露し、大歓声をあげていました。

ドレミの歌、よさこいソーラン踊りで始まった 第二回桂小まつり

昨年11月4日(日)、まつりは午後から、まず体育館で全校児童が、親、祖父母、地域の人たち約130人の前で、歌、踊り、合唱、朗読劇などを、学年別、またはグループで披露することから始まりました。その後、児童たちは屋内で昔遊び(お手玉、メンコ、あやとり、けん玉、羽子板、ベーゴマ)に挑戦。

空き缶積み重ねで1位のグループは15個を積み上げ、小躍り。北方の高齢者クラブが篠てっぽう作りを指導し、児童たちは見様見真似で挑戦していました。

校庭では、大声で笑い、叫び、走り回る元気な児童達の姿があった

校庭では、竹馬、輪投げ。高齢者が指導するグラウンドゴルフ(孫根)、ペタンク(坏)では参加児童が後をたちません。指導する高齢者は汗だくです。

また、参加者は、米2斗で2種類600個のおにぎりと豚汁(錫高野)、20キロの蒸しさつまいも(高久)でお腹を満たしました。いずれも美味しいと評判でした。



まつりは、来栖校長の「いろいろな事をやってみる体験活動が大切」という話と各区協力者への感謝の言葉で終わりました。

※()内は協力指導した高齢者クラブの地区名

「悲しい」

両手の親指と人差し指の先をつけて目の下におき、下げる 片目でも大丈夫です



目から涙がこぼれる様子を表わす(かわいそう・泣く・涙)の手話にも使われます

「寂しい」

右手の親指とほかの4本の指の間をあけ、胸の前で閉じる



寂しくて気持ちしがほむ様子を表わす

(胸の前で両手をすぼめながら下げる仕草の「がっかりする」でも表現する事ができます)

わが町のさわやか元気さん ②8

小林アサノさん 88歳
石塚



阿久津きのいさん 88歳
下古内

大正14年1月20日生まれ
のきのいさんは、新年を迎えて88歳になりました。

息子さんご夫妻と、お孫さんとの4人家族です。

ご主人は20年前に61歳で亡くなりました。

2人で頑張って続けてきた農業を止めてから、一時期体調をくずしましたが、今は健康な毎日を送って居

アサノさんはご主人が亡くなった後も、一人で綿店を続けています。88歳の今でも毎日仕事をしています。

山形県から当町に移り住み綿工場を造り、綿打ち返しの精密機械を購入しました。戦後は綿の打ち返しの注文が多く、従業員を雇い入れ多忙でした。その後石塚の大火にあいましたが、ご主人と共に綿店を再建

るそうです。

食事好きな惣菜は手作りで。訪問の際には、菊の花の酢の物、赤蕪の甘酢漬、栗のブランデー煮等をご馳走になりました。

趣味も巾広く、振れば望みの物が出る」と言う、5円玉500枚で作った打ち出の小槌は見事な出来栄です。1,000

ピースのジグソーパズルは何枚も完成、又6,000羽の折鶴を作り、神社



し、続ける事が出来ました。

現在、家族は3人です。アサノさんは、一人でお店を守り注文された布団を作っています。

「私は布団を作る仕事が大好きで、出来上がった時の楽しさと喜びは格別です」と生き生きとしたお顔で話されました。目的を持って毎日を送るアサノさんの若々しさに脱帽です。

新年を迎えられ、これからもお元気で仕事を続けて下さい。

6社に千羽鶴として奉納をしています。

息子夫婦、娘夫婦の支えがあり、ここ迄やって来られました。感謝の気持ちで一杯ですとの事でした。

新規採用職員紹介

平成24年11月から新規採用となった臨時職員です。よろしく願います。

デマンド交通事業

渡辺敦子



訂正とお詫び

31号の2ページ金婚式の記事において、小瀧登代子さんのお名前を登美子さんと表記してまいりました。また、5ページ東北を旅して応援しよう!!の記事において、東松島市を東松山市と表記してしまいました。お詫びを申し上げますとともに、訂正いたします。

目次

●もちつき	2
●新年のご挨拶	1
●さうと生さる	3
●巳年 今年の抱負は	4
●社会福祉大会	5
●リリーダ研修会 上坪発表	4
●グラウンドゴルフ(2)	3
●誰もが認める機界チームの強さ	2
●しろさと⑤「古内大杉ばやし」	1
●城里町介護予防講演会	1
●介護予防は自分のために	1
●つくしの四季	6
●手話を学ぶ⑥感情の表わし方	7
●第2回桂小まつり	7
●新規採用職員紹介	8
●訂正とお詫び	8
●編集後記	8

編集後記

東日本大震災から2度目の新しい年を迎えた。あの日の記憶は決して消えることはないと思うけれど、私達のまわりの環境や生活行動は、震災前とほとんど変わらないと感じられる程に戻ったように思う。しかしあの福島第一原発周辺に住んでいた方々は、住み慣れた居場所を離れ、不慣れた土地での避難生活を続けている。今、その方々はどんな気持ちで2度目の新しい年を迎えたのだろうか、と考え自分に置き換えてみる。

今、自分が立っているまわりの風景や、踏み親しんだ足元の感触が違う、と想像してみると何とも言い難いとても寂しい気持ちになる。やりきれなくなる。いや、言葉でいい表わすことは出来ないのではないか。その目に見えないやるせない気持ちで新しい年を迎えた人達が、いるんだ」ということを、決して忘れてはならないと思う。

(わ)